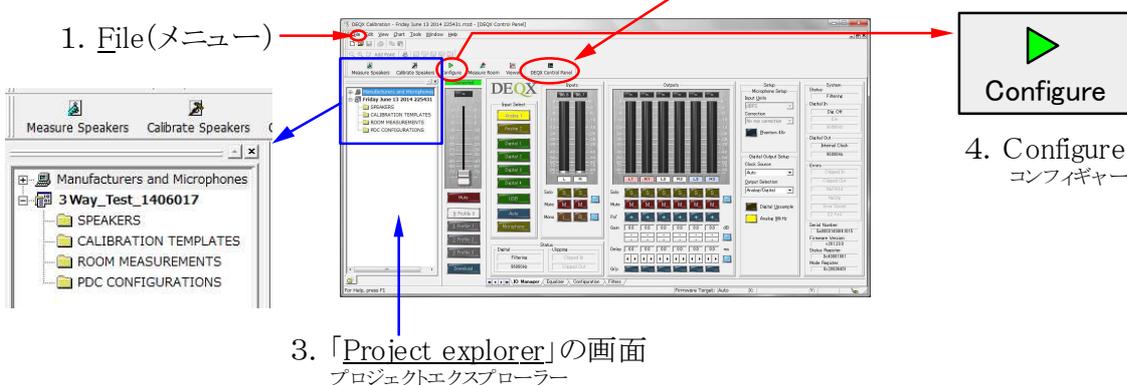


DEQXの事前準備-3

■ 最小限の設定で音を出してみる

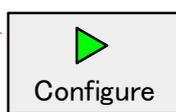
- 新品のDEQXは内部の配線(信号処理系統)が出来ていないため音が出ません。
- 最小限、出力端子に出す信号の経路を決めてやる必要があります。(E-01参照)
- このためにはチャンネルバイダーの設定(Configure:コンフィギャー)が必要です。
- 貴方の装置はSingle ampですか、Bi ampですか、それともTri ampですか。(D-01参照)
- ここでは、Single ampとTri ampを例に設定しますが、Bi ampの場合も同様です。

[図1] Calibrationソフトの「DEQX Control Panel」の画面



1. File(メニュー)

3. 「Project explorer」の画面
プロジェクトエクスプローラー



4. Configure
コンフィギャー

< 操作手順 >

1. File メニューからNew Project...をクリック
2. ファイル名を書き換える → (例)「3Way_Test_1406017.mzd」 → 保存する
3. Project explorer画面にプロジェクト名が表示される
(Project explorer画面が出ていない時はViewメニューからProject explorerをクリックする)
4. Configureをクリック → 「DEQX Congratulations Wizard」画面で設定を開始する

DEQX Congratulations Wizardの画面



① Wizard:案内画面
→ Next>をクリック



② 上段の「Create...」にチェックを入れてNext>をクリック

- ★ ヒント！
- Create...は新規に設定する場合
 - Load...は既存の設定を使う場合



③ Name欄はそのまま使用、Modeは構成を選択し → Createをクリック

- ★ ヒント！ Modeの選択肢は
- Tri-amp
 - Bi-amp with optional stereo subwoofers
 - Bi-amp with optional mono subwoofer
 - Single-amp with optional stereo subwoofers
 - Single-amp with optional mono subwoofer

- ★ ヒント！
- Subwooferを使わない場合でも Stereo/Monoのどちらかを選択

次ページへ

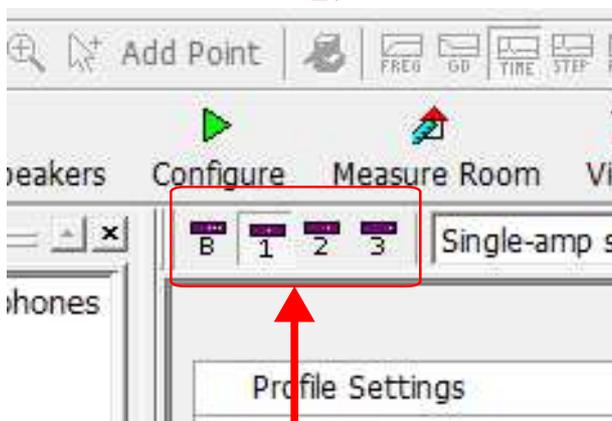
前ページより

④ Congratulationの
初期設定完了画面



完了をクリック

< Profile選択ボタン >

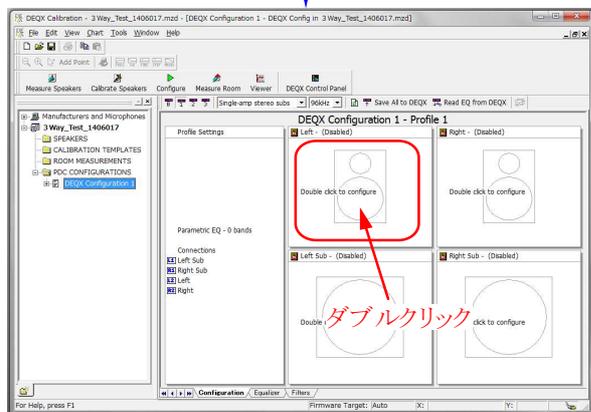


■ DEQXの操作で重要な項目の一つ: Pprofile(プロフィール)
 ■ 4種類の設定を記憶させ、ワンタッチで呼び出すことができる

- ・このページでは記憶させたいProfileを選択するボタンとなる
- ・画面の「B」「1」「2」「3」はHDP-4のリモコンでは「B」が「0」となる
- ・ここではデフォルト(規定値)である「1」にそのまま設定する

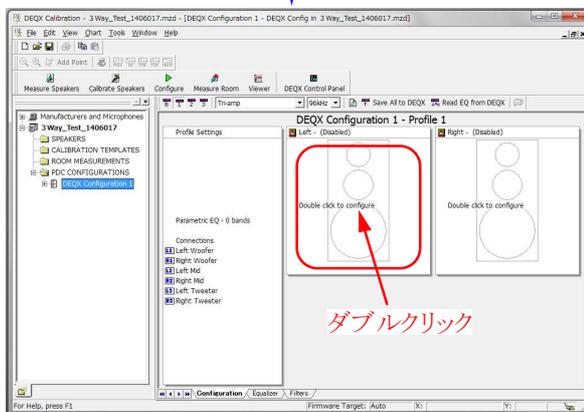
※前ページの③でSingleアンプを選択した場合

Single-amp with optional mono subwoofer



※前ページの③でTriアンプを選択した場合

Tri-amp



Use a crossover filter・・・にチェックを入れると下部にパラメーター設定欄が表示される

Frequency (Hz)の欄にクロスオーバー周波数を入れる。カタログの数値などを参考にとりあえず適当な値を入れて、「適用(A)」→「OK」をクリック
(ここでは500Hz-48dB/octと5000Hz-96dB/octに設定)

Bypass correction・・・にチェックを入れて「適用(A)」→「OK」をクリック

Frequency (Hz)	Slope (dB/Octave)	Crossover Type	Delay (ms)	Max. Delay (ms)
500	48	Linear Phase	921	23.39
5000	96	Linear Phase	0.83	5.34

設定を確認

右クリックでCopyして → 右クリックでPaste

設定を確認

右クリックでCopyして → 右クリックでPaste

■ パソコン側の設定が完了

DEQXにデータを転送中の画面

Save All to DEQX

DEQX Configuration

- Initializing
- Creating the combined filter sets
- Compressing the filters
- Saving filters to the DEQX
- Configuration complete

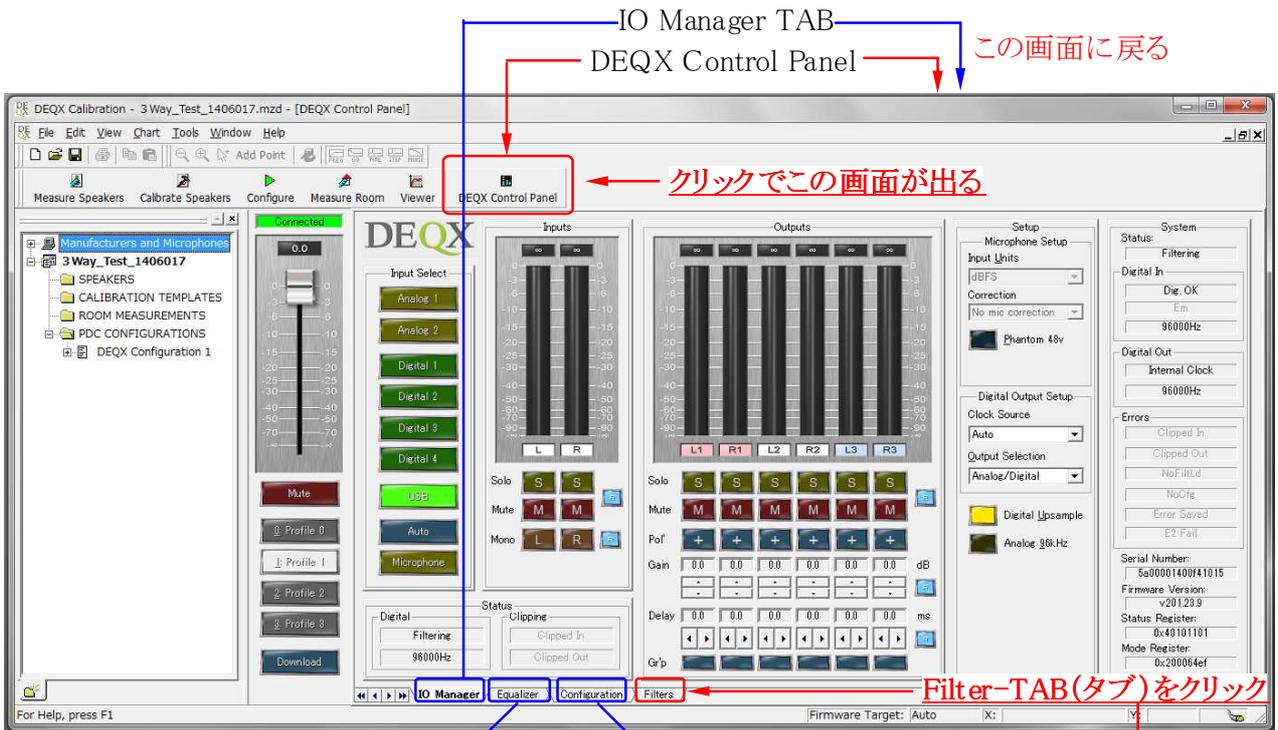
Close when done

Cancel

- DEQXを設定する上で重要な項目: Save All to DEQX
- パソコンで設定したデータをUSB経由でDEQXに転送する
 - ・データの転送時にエラーが出た場合は注意が必要である
 - ※ 設定したデータに異常があると転送時にエラーとなる
 - ※ エラーとなったデータは消去して新たに設定をし直す
- DEQXからデータ(EQ設定)を読み込む場合は右側の「Read EQ from DEQX」を使う

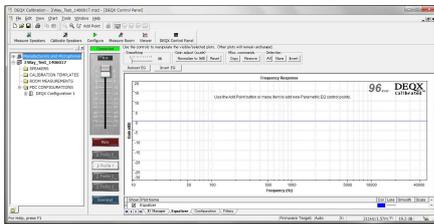
■ DEQX側の設定も完了

■ Tri ampのConfiguration設定を確認する

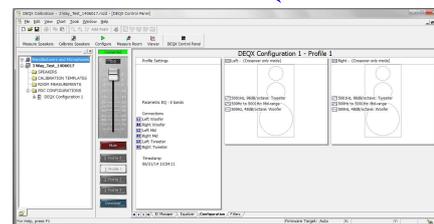


Equalizer TAB

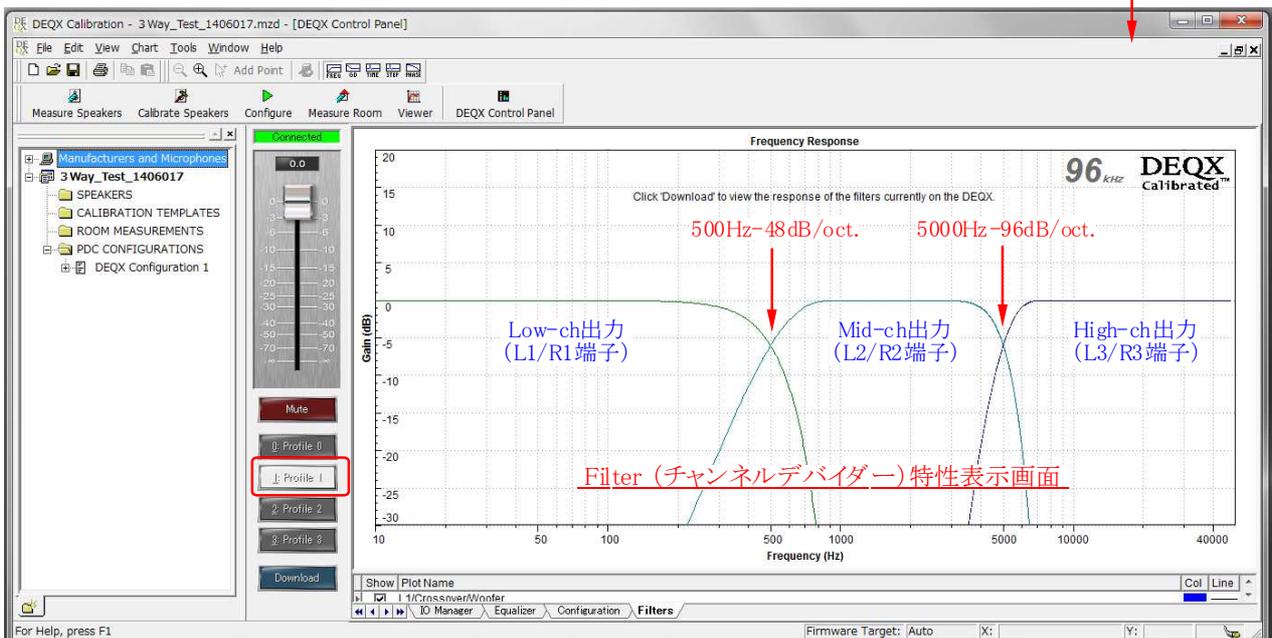
Configuration TAB



< EQ (Auto/Manual) の表示画面 >



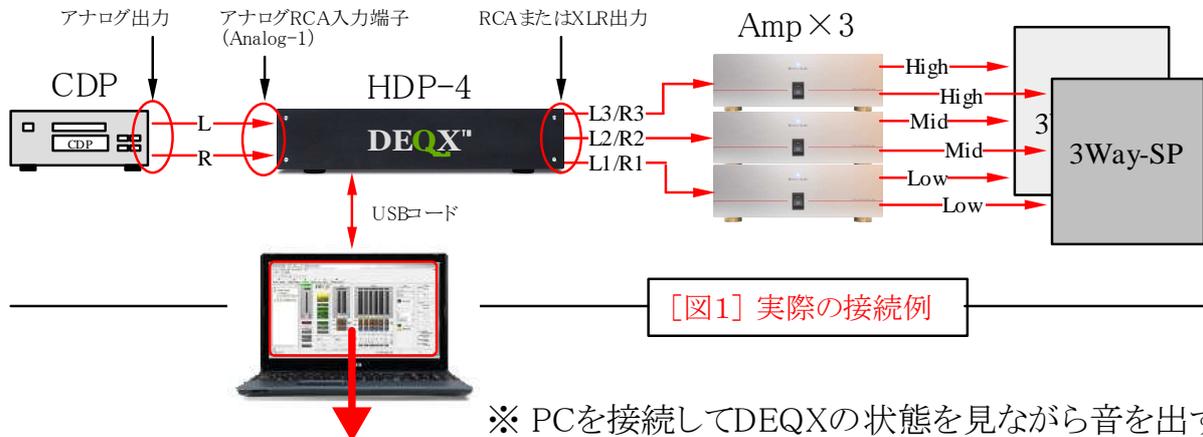
< Configuration の設定表示画面 >



★ ヒント！ Single amp設定はクロスオーバーがなく、フラットで出力端子はL2/R2となる

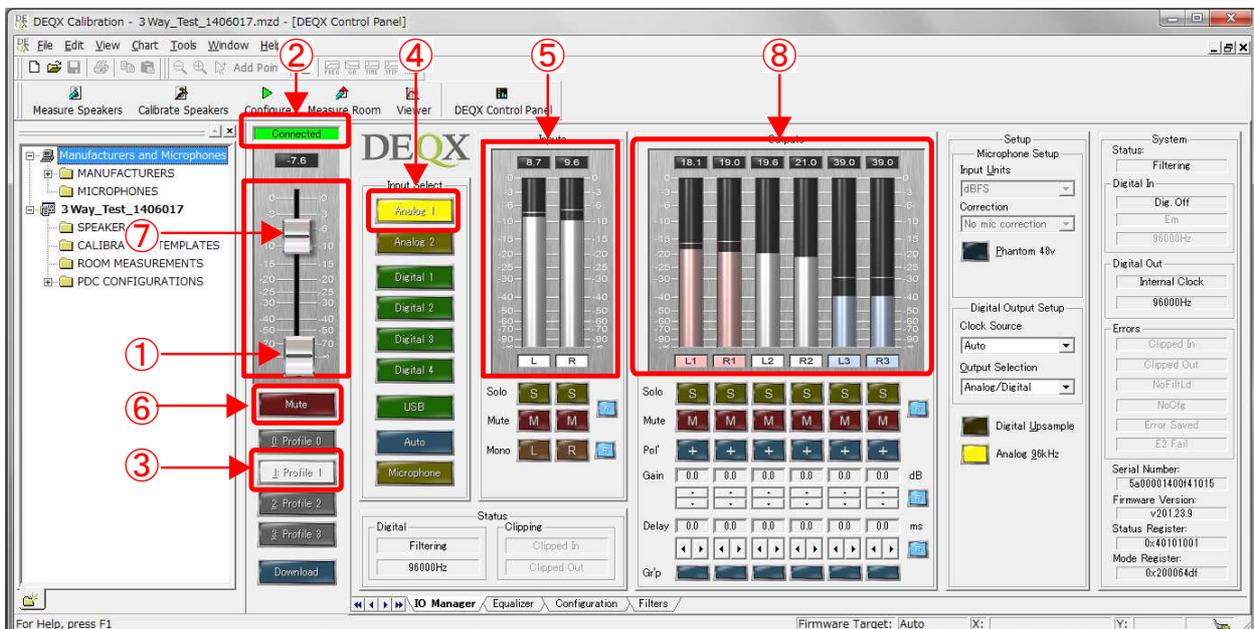
■ DEQXに入出力を接続して実際に音を出してみる

ここではTri Amp (3台のパワーアンプを使った3Wayシステム)の例を示しますが、基本的な操作手順は他の方式でも全く同様です。
 実際の操作では、スピーカーに過大なレベルが加わらないように注意して下さい。



[図1] 実際の接続例

※ PCを接続してDEQXの状態を見ながら音を出す



< 操作手順 > ①→②→③→④→⑤→⑥→⑦ この順にチェックをしながら操作を行う

※ 機器の接続を確認し、**パワーアンプ以外の電源を入れて**CDを再生したままにする

① ボリュームを完全に絞る

② DEQXとPCが通信状態にあるかどうか確認する (E-02参照)

③ Profileの「1」をクリックして選択する

④ Input Select (入力選択) ボタンの「Analog-1」を選択する

⑤ InputメーターでCDプレーヤーの信号が到達しているかどうかを確認する

⑥ このボタンが **Unmute** 表示の場合はクリックして **Mute** 表示に変える

⑦ ボリュームを上げる

⑧ Outputメーター (6本) が振れて信号が出力されることを確認する

※ ここまでの確認が出来たら一旦ボリューム絞、**パワーアンプの電源を入れる**

※ 再度ボリュームを上げてスピーカーから音が出れば作戦完了！ (お疲れ様でした)